

議員案第18号

西岡市長に対し、公約不履行に関して市民と市議会へ真摯な説明と対応を求める決議

上記の決議を次のとおり提出する。

平成31年3月26日提出

小金井市議会議員

白井 亨

河野 律子

宮下 誠

渡辺 大三

西岡市長に対し、公約不履行に関して市民と市議会へ真摯な説明と対応を求める決議

平成31年度は西岡市長にとって任期の最後の年であり、まとめの年となる。言うまでもなく3年4か月前の市長選挙において市民に約束した公約を果たすために、どれだけの努力をされたのかが問われる年となる。

ここで、大きな公約に関して、以下のとおり指摘する。

1 全く異なる「6施設複合化」と新庁舎建設

庁舎・福祉会館・図書館等の6施設複合化は紆余曲折を経て、現在、庁舎・福祉会館の2機能を複合化で進めるための基本設計を進める段階に来ているところ、この事業に関しては市長の進め方では暗礁に乗り上げるのではないかと思われたことから、市議会から提案し進めてきたという経過であるが、これらの提案に関しては評価さえしていないようである。自らの公約であるにもかかわらず、いまだに西岡市長は6施設複合化を、単に一事例として市民に示したものであると言い、詭弁を弄している。

また、市民待望の図書館にあつては、6施設複合化から除外されたことは遺憾である。

2 進まない行財政改革と悪化する財政状況

行財政改革の推進について、今後の公共施設の更新のためには年間40億円の緊急生み出しが急務と公約したものの、その公共施設マネジメントの進捗は遅く、新年度予算はわずか5万7千円のみである。施設ごとの個別計画の策定は進まないどころか、計画策定すら未定である施設がその半数を占めている。

また、就任時に比して、職員数や人件費総額、経常収支比率も上昇しているが、その一方、人材の育成と適正配置は組織運営において不可欠であり、削減だけの行財政改革は市政の停滞を招くことを忘れてはならない。

3 消えたグランドデザイン

30年後の小金井市の将来像を示すとしたグランドデザインに関しては、議会の理解を得られず予算から削除されたが、その原因は事業の目的や概要の説明が甚だ漠然としたものであったためである。西岡市長は再度のグランドデザイン策定の提案をしない方針だが、市民と約束した公約であるにもかかわらず、削除後、改めて理解を得るための行動が皆無だったことは遺憾の一言に尽きる。

4 具体策が示されない「子育て環境日本一」

「子育て環境日本一」に関しては、保育園の待機児童の解消には一定の成果が見られたものの、平成27年4月からの子育て支援の新法に沿った計画を遂行する流れがあつてのことであり、国や東京都の強力な後押し、補助金の交付がなされる事業である。漠然としたイメージだけで、指標もなく日本一を掲げているゆえ、非効率的な議論に時間を費やしている責任をどのように感じているのか。保育計画策定と公立保育園の民営化の進め方が論理的に矛盾していることを含め、市の対応への不信が広がっている現状は、標榜していることと真逆の状態と言える。

公約をめぐっての発言及び方針変更は多く見られ、市議会への対応についても、説明を怠るなど誠意が見られない場面が多くあり、市民への情報公開や説明責任についても不十分と言わざるを得ない。

よって、小金井市議会は、市長に対し、これらの公約と実態の乖離について市民に説明するとともに、残された任期で、市民への公約不履行に関する説明と、市議会に対し真摯な姿勢で臨むことを求めるものである。

以上、決議する。

平成31年 月 日

小金井市議会